

令和6年度「学区防災のありかたを考える」特別委員会  
第3回 議事録 2024/8/4

日 時 令和6年8月4日(日)18:00～19:30

場 所 志津南まちづくりセンター 会議室

出席者(敬称略)

委員長 四方道治	委員 北村昌彦	委員 猪口俊輔
委員 白瀧 明	委員 大脇正美	委員 高田篤司
サポートメンバー 高岡昭義、佐藤恵子		

以下議事内容

▽今回は、前回(第2回)議論の結論である

地震発災後72時間の対応(以下①②)、に関する議論を深めることを主眼とした。

- ① 避難所の開設・設営・運用について、共助として自分たちでできるレベルを目指して避難所の現状整理、マニュアル等の確認、訓練計画の立案実行
- ② 志津南学区では大多数の方が在宅避難となるとの想定のもと、自助でやるべきことを整理して、チェックシートを作成  
それを配布して、どこまでできているかを調査する。住民への意識付けとして活用  
自助に対して、学区全体としてすべきことを整理して実行へつなげる

議論の概要

① 避難所の開設・設営・運用 について、

・「避難所開設キット」が、各小中学校の防災倉庫に配備されており、その中に市作成のマニュアルもある。

→市作成のものは市職員向けの内容。これをベースに志津南版のマニュアルを整備する。

また、避難所の開設運用を訓練なしで素人がやるのは難しい。訓練は必須である。

HUG(ハグ:避難所運営ゲーム)訓練などの避難所運用に関する訓練を実施していく。

・発災時には、市社協がボランティアセンターを立ち上げるが、そのための訓練を年1回行っている。そこに、志津南の人が参画するべきである。発災時には、志津南まちづくりセンターでボランティアのコントロールを行うことが必要となるケースがありうる。

② 自助でやるべきこと について

・高田委員がたたき台として作成された「追分南町内会 防災冊子」が町内会単位で作成するハンドブック(チェックシート)的なものの原型となると思われる。:別紙資料を参照(内容はあくまでたたき台)

その内容概要は以下の通り

- 町内自主防災会の役割
- 居住地の立地・地盤の情報
- 想定される地震の規模
- 住民の年齢構成(組・班単位)など近隣住民の情報
- 発災後のとるべき行動、避難に関する情報
- 情報収集手段、家族間の連絡方法
- 平常時(日ごろから)にしておくべきこと
  - 災害時持ち出し品
  - 備蓄品
  - 家具固定など家の中での安全確保
  - 消火器、感震ブレーカーなど防災用具

内容の圧縮・簡素化などを加えて、ハンドブック(チェックシート)の原型として完成度を上げていく。

- ・地震と大雨が同時に来た時を考えると、そういう目で地盤としてどうかを見ておくべき。
- ・備蓄品のリストに上がっているものを、具体的に集めて(可視化して)、例えばまちづくりセンターに置いたらどうか。住民への意識付けとして効果があるのではないか。
- ・発災時の、安否確認をどうするか？マニュアル的なものが必要。基本は、班ごとに安否確認してもらうこと。各戸に訪ねること以外に、SNS活用による安否確認など方針として明確化しておく必要がある。
- ・自助に対する意識づけのために、
  - (1) 10/27 の子どもフェスタで防災関連のブースを設けて、そこで子供向けの「DIG 訓練」(災害図上訓練)をやることを通じ、防災意識の高揚の繋げてはどうか。
  - (2) 自助をたくさん書くのではなく、最低限の内容(A4の紙一枚、3項目)でまとめて、それに対する意識を問う、という形で学区全住民へのアンケートを実施してはどうか。

上記、(1)(2)について、具体化を進めることになった。

#### ▽次回予定

- ・次回(第4回)委員会 9月1日(日)18:00～ 志津南まちづくりセンター
- ・次回委員会までに(できれば事前に配信)、上記(2)のたたき台を、委員長(四方)が作成。次回委員会では、その内容の確認と議論を行ったうえで、完成させる。
- ・上記(2) 10/27 子どもフェスタへの防災関連ブースを設ける件、高岡さん(サポートメンバー)に動いていただき、草津市危機管理課による出前講座の形で行う方向で調整中。本委員会のメンバーがブースの運営に携わる。
- ・前回(第2回)委員会で決めた、前線基地玉川小学校の防災倉庫の確認については、現時点未実施であり、危機管理課の対応待ち。

以上